



東京の産業と教育

No. 169

会の目的

本会は産業界、教育界及び行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

専門高校における探究的な学びの充実に向けて ～「Tokyo IBL Project Scope」(TIPS)の推進～

東京都教育庁指導部主任指導主事(産業教育担当) 河野 敏弘



1. 東京都教育委員会の取組

東京都教育委員会は、令和7年度から、「Tokyo IBL Project Scope」(TIPS)として専門高校を含めた全ての都立高校等を対象に、探究学習を推進している。

全ての都立高校等は、Type2からType4までのいずれかの活動を行っている。Type4は、各学校が独自に進めている取組を支援する事業であるが、専門高校の新たな学びによる授業改善サポート事業により、各専門高校において、産業界などの外部機関と連携して最新の知識や技術を学ぶ機会の充実を図る取組を実施できるよう支援している。こうした専門高校と産業界が連携し、実践的な教育を推進することは、キャリア教育の一層の充実につながっている。

2. TIPSにおけるType1について

Type1は、生徒が個人で参加するプログラムであるが、その中で企業連携型プログラムを紹介する。

企業連携型プログラムの一つとして、企業と連携し、新潟県燕三条のものづくり企業が持つ、世界に誇る高度な技術を学びながら、工業系高校等の生徒がSDGsの視点を取り入れた新しいグッズづくりに挑戦する機会を設けている。

この事業では、課題解決の体験を通じて、製品開発の一連の流れや、社会課題の解決につながるサービスについて学んでいる。これにより、生徒の勤労観・職業観を育み、社会や生活の場における課題解決力や学習意欲の向上を目指している。

3. おわりに

専門高校の生徒に限らず、全ての都立高校生の探究的な学びを充実させるためには、専門的な知見を有する産業界などと連携し、外部人材等を活用することが不可欠である。

今後も、外部の関係機関等の協力を得て、探究学習を一層充実させ、東京の産業を担う人材の育成を目指す。



会報第169号のコンテンツ

- 1p: 巻頭言 2p: 実践報告 3p: 実践報告 4p: 在校生からのメッセージ
- 5p: 卒業生からのメッセージ 6p: 新会員の紹介
- 7p: 東京都生徒商業研究発表大会等 8p: 産学懇談会・作文コンクール・教育功労者表彰の報告



【実践報告】

感じて考え、伝える力を育む紅茶ブレンド実習

東京都立中野工科高等学校 食品サイエンス科 教諭 松尾 直子

1 はじめに

本校食品サイエンス科では、「食を工業的・科学的にとらえ、社会で生かせる力を育む」ことを目標に、実験や実習を通して理論と体験を結びつける授業を行っている。なかでも2年次の「デザイン系列」では、“相手と向き合う”を学びのテーマとして、紅茶のブレンドとパッケージデザインを組み合わせた探究的な実習を実施している。紅茶を題材とすることで、味覚・嗅覚・視覚などの感覚的な体験を出発点に、観察や比較、分析を重ねながら「おいしさ」を自分たちなりの言葉で説明する力を育てることをねらいとしている。

2 実習の概要

実習の前半では、まず紅茶に関する基礎的な座学を行う。茶葉の種類や産地による違い、発酵（酸化）の仕組み、味や香りに関わるタンニン類やアミノ酸類などの成分について学び、同じ“紅茶”でも成分構成や温度によって風味が異なることを理解する。次に15種類の茶葉と、ハーブ・フルーツ・スパイスなど15種類の副素材を用意し、班ごとに話し合いながらブレンドを試みる。茶葉や副素材の比率を少しずつ変えながら香りや味の違いを比べることで、感覚的な好みだけでなく、条件を変えた結果を記録・比較する姿勢が見られた。

3 観察と考察

夏の暑い時期に実習を行った班では、「アイスティーにしてもおいしいブレンドにしたい」というテーマを立て、タンニンの含有量が比較的少ないダージリン、セイロンティー、アールグレイなどをベースに、さまざまな配合を組み合わせた。渋みを抑えながら香りを引き立てるための工夫を重ねるうちに、味や



香りの変化を観察し、「どの素材がどう影響するのか」を考える姿が見られた。生徒たちは「香りが強すぎると渋みが増す」「温度を下げると甘味を感じやすくなる」など、感じ取ったことを根拠に基づいて表現しようとしていた。

4 デザインとしての表現

後半では、完成したブレンドをもとにパッケージデザインを考案する。対象とする相手を想定し、味や香りの特徴をどのように伝えるかを班で話し合いながら決定する。この過程では、紅茶の特徴を色や形で表す工夫が求められる。「フルーツ系の香りを爽やかな色で表す」「深みのある味わいを落ち着いたトーンでまとめる」など、感覚的な体験をデザインに結びつける姿勢が見られた。

5 販売と振り返り

最終的に生徒たちは、自分たちの手で調合した紅茶を文化祭で販売した。お客様に向けて、自分たちの言葉でブレンドの特徴を説明し、味や香りの違いを伝える姿は、これまでの学びの成果が形になった瞬間であった。販売後には「どのブレンドが人気だったか」「どんな伝え方が効果的だったか」を振り返り、次の活動へとつなげていく。この一連の流れを通して、食を“感じる”だけでなく、“観察し、分析し、表現する”視点が育まれている。

6 まとめ

この紅茶実習を通して、生徒たちは「食のおいしさは感覚だけでない」という気づきを得た。感じ取ったことを観察し、言葉や形にして伝える過程そのものが、デザインの学びであり、ものづくりの原点である。デザインは感性から始まるが、その感性を相手のことを思いながら形にしていくことこそが“人を想う”ということである。紅茶実習を通して、生徒たちは自分の感じ方だけでなく、相手の立場に立って表現を考える視点を養いつつある。今後も、生徒が自分の感性を出発点に、グループで意見を交わしながら考えを深め、互いの発想を重ねてひとつのものを作り上げていけるような学びを大切にしていきたい。

【実践報告】

生活科学科における特色ある教育活動について

東京都立忍岡高等学校 主任教諭 山下 久仁枝

1 はじめに

本校は、創立114年となる歴史と伝統ある学校である。全日制単位制高等学校に改編されて20年目となり、普通科4クラス、家庭に関する専門学科（生活科学科）2クラスを設置している。

生活科学科では「将来のスペシャリストとして必要な資質や能力を育てる」ことを目標に掲げ、家庭に関する専門科目を豊富に揃えており、総合的に学ぶことも、専門分野を深めることもできるカリキュラムを展開している。充実した設備施設・機器を使い、少人数制授業によるきめ細かな指導で、幅広い知識と確かな技術、豊かな人間性を構築する力を育成している。

2 「ファッションデザイン演習」におけるICT活用

(1) 科目概要

「ファッションデザイン演習」では、デザイン画の書き方の基本、パターン展開の基本をスカートやワンピース等の製作を通して学び、「ファッションデザイン演習」では、エコバッグやパンツ等の商品企画・製作・発表を通してアパレル産業の仕事を学ぶ。

(2) 授業内容

ブランドのコンセプト企画を基に、商品のデザイン・縫製、プレゼンテーション用ボードやディスプレイを製作して発表まで行う。パターンはアパレルCADソフトを用いて展開し、イラストレーター等のソフトを使ったオリジナルの生地デザイン（プリント）にも挑戦する。

過去の作品紹介や既存のブランド紹介、アパレルCADソフトやイラストレーターの操作など、被服室内でパソコンを多用する授業展開となっている。市民講師の指導のもと、アパレルCADソフトやイラストレーターの操作指導を生徒が理解する上で、見やすく分かりやすく掲示することがポイントとなる。さらに、「ファッションデザイン」の授業選択者は近年増加傾向にあり、すべての生徒に分

かりやすく効率の良い掲示方法を模索している。



アパレルCAD操作画面



パンツのブランド・商品企画 例

3 まとめ

限られた時間の中、学習効果の高い授業を行っていくには、何を優先させるかを軸にその時々を生徒の実態に合わせて、試行錯誤を続けていく必要がある。本校では現在、ファッションデザインの専門性を向上させたい思いから、以上のような取り組みを行っている。その結果、CADソフトの操作力は身に付くが、パターン展開の試みとしてアパレルCADソフト内で出来る基本的なものに留まってしまう傾向も見られる。

今後は、身に付けるべき技術をさらに明確にし、「ファッションデザイン」と「ファッションデザイン演習」とのつながりを含めた、効果的な取り組みをさらに検討していきたいと考えている。

在校生からのメッセージ INFINITY

東京都立八丈高等学校 第2学年 清水 蒼志

私の通っている高校は東京都の南国ともいわれる八丈島にあります。この島はきれいな海に囲まれているのに加え、壮大な二つの山がそびえたつ自然豊かなことが特徴です。それに加え、流人や島言葉など歴史が多くある島でもあります。それゆえ、八丈高校では八丈島の文化や歴史などに関係した授業があります。

八丈高校は、普通科と園芸科と家政科の三つの学科に分かれています。その中で私は園芸科に所属しています。園芸科では、各学年で学ぶ内容が少し異なります。1学年では農業と環境・草花・農業と情報を、2学年では野菜・草花・食品製造・植物バイオテクノロジーを、3学年では野菜・草花・食品製造・園芸デザインを学びます。そして、3学年になると上記の内容に加え、課題研究と呼ばれる三年間で学んだ内容を踏まえ自身の気になった内

容について研究する授業が入ってきます。

私は元々島の生まれではなく、中学のころに移住してきました。そして、自然や周りの人のやさしさに触れてきて、今後も島の発展に貢献できるような仕事に就きたいと思っています。そして、この園芸科で学んだ内容をなるべく生かせるような仕事につけたらいいなと思っています。

最後になりますが、園芸科の生徒は少なくその分厚い指導を受けられます。また、生徒数が少ないからこそその学年を超えたアットホームな雰囲気があり、楽しい高校生活が送れます。



在校生からのメッセージ INFINITY

足立区立第九中学校 第3学年 鈴木 夏蓮

私は技術部に所属しています。技術部では、木工・金工・電気工作・映像制作など、日々様々な作品作りに取り組んでいます。私はこの2年半の活動を通して、多くの経験と学びを得ることができました。

入部した当初、部員は5人だけでした。しかし人数が少ない分、互いに協力する機会が多く、団結して活動することができました。その中でも特に印象に残っているのが、巨大キーボードの製作です。これは技術科の先生から依頼を受け、1、2年生の頃にみんなで作り上げた作品で、実際に文字を入力することができます。大きさは、一般的な「60%キーボード」の約54倍もあり、縦約90cm、横約2mと、3人がかりでやっと運べるサイズです。そのため製作には多くの時間と労力が必要でした。



特に苦労したのは二つあります。一つ目は、100箇所以上あるキースイッチに配線・はんだ付けをする作業です。集中力が必要で、失敗すればやり直しになるため大変でした。二つ目はキースイッチの台座作りです。3Dプリンタで原型を出力し、シリコンで型取りをし、樹脂を流して100個以上を成形しました。さらに一つ一つやすりがけを行い、この作業だけで2~3週間かかりました。まるで修行のような大変なこともありましたが、地道に続け、約1年をかけて巨大キーボードを完成させることができました。

完成した時の達成感はとても大きく、現在も授業で使われていることが誇らしいです。仲間と力を合わせて最後までやり遂げた経験は、私にとって大切な宝物です。これからの生活にも生かしていきたいです。



卒業生からのメッセージ BEYOND

東京都立第五商業高等学校 令和4年度卒業
明治大学商学部商学科3年 町田 ほのか

私が都立第五商業高校に入学した理由は、推薦で大学に進学できる制度があるからです。私は一発勝負の一般入試よりも、3年間コツコツと積み上げた努力が評価される公募推薦の方が自分に合っていると思い、中学時代から公募推薦を利用して大学に進学することを考えていました。また、私が明治大学を志望した理由は、これまで都立第五商業高校から明治大学に進学した人がいなかったため、誰も成し遂げていなかったことに挑戦したいという気持ちがあったからです。



高校入学後は、推薦を受ける条件を満たすために資格取得に向けて日々努力を重ねました。最初は推薦の条件を満たすためという思いで勉強を始めましたが、学習を進めるうちにビジネスや情報分野など、普通高校では学ぶことので

きない知識に触れることができ、新しい知識が増えることの楽しさに気づきました。特に、学校の先生方の指導のもとで「日商簿記検定2級」や「基本情報処理技術者」、全商検定1級9種目など高度資格を取得できたことは、大きな自信につながりました。

結果として、推薦を受ける条件以上の資格を取得することができました。高校時代に得た資格は、就職活動で履歴書に記載できるだけでなく、将来の選択肢を広げる強みとなっています。そのおかげで大学では、学業だけでなくサークル活動や就職活動にも力を注ぐことができています。

最後に後輩の皆さん、受験の方法や進路の選択肢はたくさんあります。しかし大切なのは受験の方法や進学先ではなく、進学した先で何をやるかだと思います。受験だけではなくその先で何をしたいかを考えて頑張ってみてください。自分と向き合い、自分に合った進路に進めることを願っています。

卒業生からのメッセージ BEYOND

日本動物専門学校 令和3年度卒業
トリミングサロンLINDO 調布店長 下地 怜音

現在私は、トリミングサロンの店長として、毎日たくさんのワンちゃんを、シャンプー&可愛くカットしています。

私は、犬が好きなお仕事もあり、トリマーになると決めてからコミュニケーション能力の向上を意識しました。

私は、高校時代に人見知りを克服しようとボランティア部に所属しました。そして、私は、近くの児童館に定期的に訪問して、小学生との交流や児童館のスタッフのお手伝いなど、地域の皆さまとお話をする機会を沢山持ちました。この経験が、現在トリマーとして、様々な年代の飼い主様とコミュニケーションを取る上で、相手に合わせた聞き方、話し方を意識することに役立っています。

日本動物専門学校では、トリマーになるための技術と知識の習得だけではなく、犬の病気についての獣医学やペットの栄養学、しつけ、ドッグトレーニング、動物愛護法などの

動物に関わる幅広い技術と知識を学びました。特に犬のシャンプーやカットを行うトリミング実習では、プードルやシーズー、ポメラニアン、シュナウザーなど、それぞれの犬種に合わせたカット方法などを習得できました。

自分の「好き」や「興味」を仕事にできることは、とても幸せなことです。もちろん大変なことや辛いこともあります。私は、自分の仕事で、可愛くなった犬と飼い主様の笑顔を見ることが、とても幸せです。

皆さんも、早く目標を見つけて、お友達とともに学校生活を楽しく充実したものにしてください。



新会員校の紹介

東京都立川緑高等学校 校長 石田 和仁

〒190-0022 立川市錦町 6-3-1 TEL042-529-3080

本校は、令和7年4月に多摩地区初のチャレンジスクールとして開校した三部制・総合学科・単位制の定時制高校です。

主に小・中学校で不登校経験があったり、高校で中途退学を経験したりして、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標を見つけ、その目標に向かってチャレンジする学校です。

スクールミッションに「生徒の個性・居場所・自立を大切にしたいキャリア教育を推進し、生徒が自信や意欲を身に付け、社会の一員として自らの力で未来を創り出すことができるよう育成します。」を掲げています。

本校では、総合学科高校の特徴を生かし、生徒自身の興味・関心に応じて様々な自由選択科目を履修することができます。①生活・文化系列②アート・デザイン系列③人文・自然系列の3つの系列を設置しています。

それに加えて、生徒が社会につながる学びの中で学ぶ楽しさや意義を見出すことができます。例えば、興味・関心を深める科目として「ゲーム概論」「コンピュータグラフィックス」「情報システムのプログラミング」等です。これらは、2年次以降の「総合的な探究の時間」で、生徒が自分の将来を見据えて探究していきたいことの導入を目的としています。

まだ1期生のみですが、教職員やスタッフが毎日生徒をあたたく受け入れ、社会の一員として自立していけるよう教育活動を進めていきます。



「ゲーム概論」授業様子

新企業会員の紹介

青梅商工会議所 専務理事 池田 政教

〒198-8585 青梅市上町373-1 TEL0428-23-0111

【会社の概要】

青梅商工会議所は昭和27年に設立し、商工業の総合的な発達と社会一般の福祉増進を目的に活動しています。青梅市及び奥多摩町の事業所約2,400社が会員として組織されており、地域経済の発展を目的に役職員一同取り組んでいます。特に、自治体業務やメーカーのシステム開発事業などの情報処理部門を有しており、全国でも数少ない商工会議所のひとつです。理念「経済の好循環なくして持続可能な社会なし」のもと、次の4つの柱で活動しています。『企業支援』では、新規取引開拓や事業所PRなどのアドバイス、公的融資制度の斡旋や助成金の情報提供など様々なメニューで支援しています。『地域産業活性化』では、産業と観光振興を目的としたイベント開催の他、商業活力を取り戻すためのイベントにも取り組んでいます。『情報事業』では、パーソナルから大規模なシステムの他、最新鋭システムまでを職員が手掛けており、財政面で支えています。『政策提言活動』では、会員企業

の意見や要望をとりまとめ、政策提言をしています。

【メッセージ】

青梅商工会議所ではハローワーク青梅のご提案により、周辺地域の高等学校の進路指導の教員の方々へ優良企業を紹介しています。また、地域内の中学校や高等学校へインターンシップ受入企業を紹介しています。更に、就職希望者を有する高等学校には高校生の新卒採用を予定している企業を招集し、簡易的な職業体験を実施することで、企業への関心度を高め、人材雇用として支援しています。

青梅商工会議所では、今後も地域の学校と連携し「地学地就」を念頭に事業を実施していきます。



地域ボランティアの一員として積極的にお店のPRに取り組む生徒たち

創立70周年記念座談会報告

令和7年9月19日(金)、創立70周年記念事業の一環として都庁内会議室で創立70周年記念座談会を開催しました。座談会のテーマは、「専門高校の現状とこれから目指すこと」です。

産業教育に関わる農業、工業、商業、家庭の各学科・学校における現状と課題、今後の展望についてお話をいただきました。まず、座談会は、西澤会長から座談会の趣旨についてお話を頂きました。その後、河野主任指導主事(司会)から、いくつかのご質問に対して、参加者の皆様からご意見を頂きました。

なお、この座談会の詳細は会誌63号にて掲載いたします。

当日の出席者(敬称略)は以下の通りです。
西澤宏繁会長(Fore Vision株式会社取締役)
小林治彦副会長(東京商工会議所常務理事)
並川直人校長(都立農業高等学校)
鈕持利治統括校長(都立六郷工科高等学校)
山田和人校長(都立芝商業高等学校)
金澤正美統括校長(都立赤羽北桜高等学校)
河野敏弘指導部主任指導主事(産業教育担当)
参加者の皆様には貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。

東京都生徒商業研究発表大会を参観しました

令和7年8月26日(火)、都立第五商業高等学校において、東京都商業教育研究会主催の令和7年度東京都生徒商業研究発表大会が開催されました。この大会は、商業を学ぶ生徒が商業に関する課題を設定し、その解決を図る一連の研究活動の中で、生徒の問題解決能力や創造的学習態度を育てるとともに、その成果を発表する機会を通して、生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成することを目的としています。さらに、この大会を通して、①時代の進展に伴い変化していく経済活動に対応する資質を身に付けさせる、②研究成果の発表により、相互研鑽に資する姿勢を身に付けさせる、③大会に関連する一連の行動を通じ、規律ある団体生活の態度を身に付けさせ



大会委員長
会長 智片将也

る、という教育成果の実現を目指しています。いずれのチームも素晴らしいプレゼンテーションで甲乙つけがたいものでしたが、事前に提出された研究報告書も含めた審査の結果は以下の通りでした。

○最優秀賞 都立第五商業高等学校

「What is Misophonia? —ミソフォニアの認知度を高めるために—」

○優秀賞 都立芝商業高等学校

「ひがたぐらむ —ひがた部をキッカケに竹芝干潟の認知度向上—」

今大会の審査委員は、千葉商科大学商経学部の永井克昇先生、東京都教育庁指導部の中嶋郁絵指導主事、日本政策金融公庫の向笠大樹東京創業支援センター長、(株)エマリックにたちの菱沼勇介代表取締役という方々でした。審査委員お一人お一人から熱く丁寧な講評があり、研究発表に取り組んだ生徒や指導に当たった先生方には、大変励みになったであろうと強く感じました。大会の準備・運営等に携わった関係者の皆様には心より感謝申し上げます。



産学懇談会（第2回・第3回）

今年度の産学懇談会は、第2回を都立瑞穂農芸高等学校、第3回を学校法人川口学園早稲田速記医療福祉専門学校で開催しました。

両校の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

【第2回】9月25日(木) 都立瑞穂農芸高等学校

都立瑞穂農芸高等学校は、東京都西多摩郡瑞穂町にある専門高校で、農業や家庭に関する専門的な教育を行っている学校です。

開会の挨拶を西澤宏繁会長、安藤紗季都立学校教育課長代理（計画担当）、大畑哲也会場校校長より頂いた後、校内見学（施設・設備等）を行いました。

見学後、大畑校長から学校概要や特色ある教育活動について詳しく説明を頂いた後、懇談に移り、参加者から施設見学・学校説明に対する質問・感想が述べられました。また、学校の現状と課題、教育活動への期待について意見交換を行い、有意義な機会となりました。



【第3回】12月2日(火) 学校法人川口学園早稲田速記医療福祉専門学校

早稲田速記医療福祉専門学校は、速記の普及を目的に1935年に設立されました。その後時代の変化に対応し、1972年に日本初の医療秘書科を開設しました。

現在は、看護科、介護福祉科も開設し、医療と福祉の分野で「専門事務職」と「専門技術職」のスペシャリストの育成を行っています。

開会の挨拶を西澤宏繁会長、川口拓也会場校校長、安藤紗季都立学校教育課長代理より頂き、その後、校内見学（施設・設備等）を行いました。

見学後、川口校長から学校概要や特色ある教育活動について詳しく説明を頂いた後、懇談に移り、参加者から施設見学・学校説明に対する質問・感想、学校の現状や課題について意見交換がなされ、有意義なものとなりました。



令和7年度 作文コンクール

本会主催・東京商工会議所後援「作文コンクール」の応募数が過去最多 346 作品となりました。会員の皆様のご協力ありがとうございました。

	応募校数	応募作品数
中学校の部	25 (27)	172 (178)
高等学校の部	23 (21)	160 (155)
専修学校の部	3 (3)	14 (12)

() 内は昨年度の実績です。

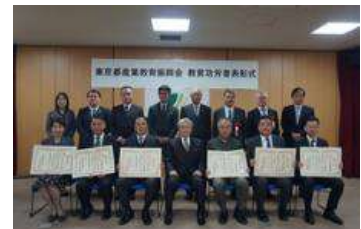
第一次選考を経て第二次選考委員会を、中学校の部は10月23日に、高等学校・専修学校の部は10月24日に開催し、52作品の入選を決定しました。表彰式は12月19日(金)、東京商工会議所にて開催しました。

なお、入選作品は入選作品集「明日に生きる」第36号に掲載いたします。

令和7年度 教育功労者表彰

教育功労者表彰は、多年にわたり東京都の産業教育に従事かつ尽力され、多くの功績をあげられた方々を表彰するものです。今年度は、高等学校2名、高等専門学校1名、中学校5名の方々を表彰しました。

表彰式は11月11日(火)、全商会館にて開催しました。



事務局より

令和7年度「会報」第169号をお届けいたします。発行に際し、御協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。皆様からの御感想、御意見などをお寄せください。


発行 東京都産業教育振興会

住所 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

東京都教育庁都立学校教育課
高等学校教育課内

電話 03-5320-6729

ホームページ <https://www.tosanshin.org/>

印刷  教育庁サポートオフィス
Palette パレット